

平成29年度全国木材資源リサイクル協会連合会

通常総会議事録

開催日時 : 平成29年5月19日(金) 13:30~14:30
場 所 : 文京シビックセンター 26階 スカイホール
総会員数 : 正会員 168社+6協会=174団体(うち議決権168)
賛助会員 15社、物流会員 8社
出 席 : 正会員 41社 57名、
賛助会員 9社 13名、物流会員 2社 2名
事務局員 : 10名、プレス 2名 合計 84名
書面表決 : 9通
委任状 76通

議 事

- 第1号議案 平成28年度事業報告
 - 第2号議案 平成28年度決算
 - 第3号議案 平成29年度事業計画
 - 第4号議案 平成29年度当初予算
 - 第5号議案 役員の改選
 - 第6号議案 定款の変更
 - 第7号議案 職員の給与に関する規程の変更
- 諸般の報告
- (1) 調査及び広報活動推進委員会活動報告
 - (2) 寄付金の募集について
 - (3) 発電利用に供する木質バイオマスの証明に係る事業者等認定について

議事内容

司会 事務局長 原 信男

- 1 開会の辞 藤枝 慎治 副理事長(関東木材資源リサイクル協会会長)
- 2 理事長挨拶 鈴木 隆 理事長
お忙しい中、たくさんの皆様に本日の総会にご出席をいただき、ありがとうございます。

平成 28 年度について、各地域協会におきましては連合会事業に多大なご尽力をいただき、改めてお礼申し上げます。28 年度を振り返ると、基本的な方針は変わらないが、建設系廃木材の需給調査に着手した。28 年度中に最終的な結果は見いだせていないが、引き続き 29 年度に多面的な情報を得てブラッシュアップし、皆様に報告が出来ると考えている。木材資源を取り巻く環境はこの数年かなり多くの変化を遂げていると、皆様も感じていると思う。とくに 29 年度においては再生可能エネルギーにおけるバイオマス元年と言われるほど、各地で数多くの発電施設が稼働する。そうした市場の中で、メーカー、ユーザーがどのような形でこれまでの安定的な需給バランスをとっていかかが今後の課題となる。もちろん価格面からも同じことが言えると思うが、その中で連合会事業を通じて多くの方にその状況を発信することが最も大切なことであると思うし、それを認知していただくことが非常に大事な今後の形になると思う。29 年度においても、引き続き皆様方とともに多くの知恵、力を出して、どのような変化にも耐えられる形で事業展開をすべきであると考えている。ぜひ、ご協力をお願いしたい。本日、総会におきまして 7 つの議案を上程しておりますが、皆様の忌憚のない意見、そして慎重審議をお願いし、総会が盛会裏に終わられることを願います。最後に各地域協会、そして皆様方の企業が今後ますます発展されることをご祈念し、開会のご挨拶とする。

3 司会からの総会成立の報告

総会の正会員の出席は 41 社であり、また、正会員から 85 通の委任状と書面表決が提出されているので、併せて 126 社が出席したことになる。

これは、議決権数 168 社の過半数を上回っており、総会が成立しているとの報告があった。

4 議長選出

本日の総会の議長について、鈴木 隆理事長を議長とすることで了解を求めたところ、全員の拍手により承認された。

5 議事録署名人選出

関東協会・徳山重男氏、九州協会・河本一成氏に議事録署名人となることの了解を得た。

6 議事

議長 鈴木 隆 理事長

第 1 号議案 「平成28年度事業報告」

原事務局長から資料に基づき、次の説明があった。

平成 28 年度事業報告について、建設系廃木材の需給調査を重点事業として多くの課題につき検討を重ねたこと。このほか、連合会の定款に定める 6 つの事業を実施したこと、また、それぞれの事業の実施状況が報告された。

特に、リサイクルマップの大幅改定、建設リサイクル技術展示会への出展、建設系廃木材需給調査に関連した木材資源リサイクル調査及び広報活動推進委員会の開催状況、27 年

度に全国大会のため実施できなかったユーザー懇談会の開催、熊本地震への義援金支出などについて説明があった。併せて FIT の事業者一覧と実績について説明があった。

議長が質問を求めたが特になく、拍手により了承された。

第 2 号議案 「平成 28 年度決算」

原事務局長から資料に基づき、次の説明があった。

平成 28 年度決算については、経常収益は 8,243,798 円、経常費用は事業費 5,757,910 円と管理費 2,739,111 円を合わせて 8,497,021 円で、現年度支出が現年度収入を上回り、253,223 円のマイナスとなり、結果、正味財産額は 8,263,378 円となったことが報告された。理由は、ホームページの改訂、熊本地震義援金の支出、事務局パソコンの買い替え等例年のない支出があったことによるとの説明があった。併せて、定款ごとの活動計算書内訳、寄付金の受付状況について説明があった。

引き続き、矢吹 賢二監事から、4 月 26 日に田中 一正監事とともに実施した監査結果について報告があった。

議長が質問を求めたが特になく、拍手により了承された。

第 3 号議案 「平成 28 年度事業計画」

原事務局長から資料に基づき、次の説明があった。

平成 29 年度の事業計画については、FIT に基づく多くの発電設備が稼働することにより、木材資源の安定的な活用が求められること、木材資源を取り巻く新たな環境変化への対応を踏まえ、構想を提案する団体として事業を推進していくとの説明があった。

活動方針については引き続き「展望」「刺激」「利点」「発展」の 4 つの柱で取り組んでいくこと、事業計画については定款に定める事業ごとの説明があった。

特に、地域の公共施設での環境講座の複数開催、建設系廃木材需給調査の活用、FIT 制度への対応、ユーザー懇談会等について説明があった。

議長が質問を求めたが特になく、拍手により了承された。

第 4 号議案 「平成 28 年度当初予算」

原事務局長から資料に基づき、次の説明があった。

平成 29 年度当初予算については、経常収益は会費収入 4,924,000 円、寄付金 3,000,000 円等を見込み 8,224,000 円、経常費用は事業費 13,425,840 円と管理費 3,061,538 円を合わせて 16,487,378 円となっていること、経常費用には前期繰越 8,263,378 円を加えているとの説明があった。特に、業務委託費を 3,500,000 円見込んでいるが、平成 28 年度の建設系廃木材需給調査の支払いが平成 29 年度に繰り越しとなったため、改めての計上となった旨の説明があった。

議長が質問を求めたが特になく、拍手により了承された。

第 5 号議案 「役員の改選」

原事務局長から資料に基づき、次の説明があった。

現行役員が平成 29 年 5 月 22 日に任期満了のため改選すること、澤地義雄氏が平成 29 年 4 月 20 日に退任したこと、他の役員は留任とすること、原信男氏が本日付をもって理事となること、について説明があった。

議長が質問を求めたが特になく、拍手により了承された。

第 6 号議案 「定款の変更」

原事務局長から資料に基づき、次の説明があった。

物流会員の定義をより適切にするため、「木くずの収集運搬」から「木材資源の物流」に改めるとともに、附則を追加する。

議長が質問を求めたが特になく、拍手により了承された。

第 7 号議案 「職員の給与に関する規程の変更」

原事務局長から資料に基づき、次の説明があった。

幅広い執行体制確保のため、月額給をこれまでの 200,000 円の一区分から三区分に分けるとともに柔軟な対応を可能とした。

議長が質問を求めたが特になく、拍手により了承された。

以上により議決事項の審議は終了し、鈴木議長から全体についての発言を求めたが特になく、全ての議案の審議は終了した。

7 報告

以下の事項について、資料に基づき原事務局長から報告があった。

(1) 平成 28 年度木材資源リサイクル調査及び広報委員会活動報告

平成 28 年度は特に建設系廃木材需給調査を重点として検討した結果、例年の 4 回程度から 6 回の開催となった。具体的には、コンサルタント会社からの報告を受け、現場の感覚と照らし合わせながら検討した結果、最初の過去の住宅の滅失確率による推計に対して、住宅着工戸数と除去数の関係から将来の解体戸数を想定する推計を加え、二つの推計を並列した形で示すこととなった。この報告は平成 29 年 6 月開催予定の当委員会終了後、ホームページに掲載する。

このほか、例年実施している、国への要望事項の検討や木質チップ市場価格等の調査等の検討についても報告された。

なお、平成 29 年度は委員長と地域委員の交代がある旨、報告された。

(2) 寄付金の募集について

例年、寄付をお願いしているが、当連合会においても新たな事業展開、執行体制の条件整備など従来に増して運営費が必要となっている。一方、認定 NPO 法人として継続するには、収入に占める寄附の比率が一定以上という要件を満たす必要がある。

については、厳しい経済情勢の中ではあるが、28年度と同様の寄付額を見込ませていただいたので、寄附募集の趣旨にご理解とご賛同をいただき、格別のご協力、ご支援をお願いする。

なお、認定NPO法人に対する寄附については、寄附者への免税措置等優遇制度がある。

(3) 発電利用に供する木質バイオマスの証明に係る事業者認定について

次の3点について、お願いがあった。①事業者認定申請書の様式変更について、②認定事業所及び審査委員について、③FIT認定事業所実績報告について。

なお、事業者一覧について訂正のお願いがあった。

以上ですべての審議、報告が終わり、通常総会におけるすべての審議は終了した。

8 閉会の辞 山口 昭彦 副理事長 (東海木材資源リサイクル協会会長)

鈴木理事長、お疲れ様でした。皆様には速やかな審議とご承認、ありがとうございます。これで平成29年度通常総会を閉会する。

以上をもって全ての議案の審議は終了し、この議事録通り相違ないとして、議長及び議事録署名人において記名捺印する。

平成29年5月22日

議長 鈴木 隆 ⑩

議事録署名人 徳山 重男 ⑩

同 河本 一成 ⑩

議事録作成人 原 信男 ⑩

平成29年度全国木材資源リサイクル協会連合会

臨時理事会議事録

開催日時：平成29年5月19日（金）14：30～14：40

場 所：文京シビックセンター 26階 スカイホール

総 役 員：理事13名、監事2名

出 席：理事10名 鈴木、藤枝、山口、片岡、中山、中野、徳山、石田、河本、原
監事 2名 矢吹、田中

議 事：第1号議案 役職の選任

議事内容

司会 事務局 原 信男

定款36条に基づき、鈴木理事長が議長を務めることとした。

議事録署名人の指名

事務局からの指名の了解を得て、関東協会 藤枝 慎治氏、東海協会 山口 昭彦 氏の2名を指名した。

第1号議案 役職の選任

議長 鈴木 隆 理事長

先程の総会において、「第5号議案 役員の変更」が原案通り了承された。

これに基づき、理事長、副理事長、専務理事の互選について次の提案をしたところ、特に意見はなく、提案どおり可決された。

理事長 藤枝 慎治

副理事長 鈴木 隆、山口 昭彦、鷹野 賢次郎、片岡 重治、中山 智

専務理事 原 信男

平成29年5月22日

議 長 鈴木 隆 ㊟

議事録署名人 藤枝 慎治 ㊟

議事録署名人 山口 昭彦 ㊟

議事録作成人 原 信男 ㊟

平成29年度全国木材資源リサイクル協会連合会

鈴木 隆 前理事長の退任挨拶

退任の挨拶をさせていただく。3期6年にわたり連合会の理事長職を全うできたことを本当にありがたく思う。この6年間、地域協会、関係諸団体の皆様方にはご指導をいただき、自分として勉強でき、成長できたと思う。3期6年は人によつての評価は短くもあり、長くもあるが、ここで一区切りを付け新たな変化を求めて藤枝理事長にバトンタッチをさせていただく。6年の間、一番大きな出来事は東日本大震災である。途中、RPS法の施行、そしてRPS法に代わり、FIT制度が施行された。木材資源を取り巻く環境の中で、大きな変化を経験できたことは大変ありがたく思う。最後に、皆様のおかげでやり遂げることができたこと、本当にありがとうございました。

藤枝慎治 新理事長の就任挨拶

新しく理事長となる藤枝です。大変重い責任を負うが、一生懸命に頑張っていきたい。鈴木前理事長は設立時の彦坂理事長の後を受け組織を拡大し「構想を提案する団体」として強固な組織をつくりあげていただいた。引き続き、副理事長として理事にとどまり一緒に団体を盛り上げていただきたいと思います。当NPO法人は非営利活動法人としての役割を果たすべく従来の4つの基本方針を踏襲していくが、特に前理事長からは発展の面をしっかりと取り組むように言われている。基礎をつくっていただいたので、さらに発展して強い組織に、そして国や社会から頼りにされる団体に育てていきたい。その事業を進めるために会員各位のご協力を賜りたい。寄付金のご支援をお願いするとともに、積極的に事業に参加していただきたい。木材資源に係る環境は大変厳しく、また先行きの見えない状況である。一致団結して進んでいきたいと思う。重ねてお願いし、就任のご挨拶とする。

澤地義雄 前専務理事の退任挨拶

まずは盛会のうちに総会が開催されたことをお祝いする。理事長がこの度交代するという事で、私も退任させていただくこととした。平成27年から2年間、連合会で種々の事業を行い、皆様にお世話になるとともに貴重な体験をさせていただいた。私事であるが先般手術をし、今後は健康に留意して過ごしていきたい。先ほどの臨時理事会で新しく理事長が決まったが、連合会、各地域協会、そして皆様が一層ご健勝であることを祈念し、退任のご挨拶とする。大変お世話になりました。ありがとうございます。

原 信男 新専務理事の就任挨拶

澤地氏の後任として専務理事を務めさせていただく。至らぬ点が多々あると思うが、皆様のご支援、ご協力をお願いする。

平成29年5月19日